

市の民の声



頼娃町 牧之内
田原 三知恵

知ること 寄り添える介護を

頼娃に嫁ぎ27年、住めば都となりました。6人の子どものうち3人は単立ち、それぞれの地で頑張っております。子育ても残る3人となった時に姑の介護が始まりました。家族で協力する介護を通して学ぶことが多く、介護の知識もまったくない不安だらけでのスタートでしたが、手探りの中介護する側、される側も次第に慣れてきました。しかし、病状や認知症が悪化してくると、戸惑い涙する日もありました。子どもたちも祖母の変

化への対応が判らず、イライラが募り優しい気持ちもありません。子どもたちにも解決策を示してあげられない私は、自分を責めて落ち込む日々。同じように介護で悩みを抱えている方やプロからのアドバイスに救われました。

介護は今後、だれの身にも訪れるであろう問題の一つです。介護について語り合う場があれば心もほぐれるかと思います。小学校・中学校・高校・女性連等のあらゆる場で介護について学べる環境づくりや体験の場を設けていただくことで、いざという時に必ず役に立つと思います。行政と専門分野の方々の連携により市民との協働が図られ、介護を取り巻く様々な問題に明るい未来がもたらされることを強く希望いたします。



川辺町 今田
鮫島 敏明

子ども育成ボランティア ありがとう

夏になると、川辺小学校のプールに生き生きとした子どもたちの泳ぎで水しぶきが上がり、「しっかい泳がんか!!」と指導者の声がこだまします。川辺小学校の水泳スポーツ少年団は、昭和55年に創設され35年目を迎えます。以来多くのボランティアに支えられ、これまで続けてこられたと思うと感謝の思いでいっぱいです。もちろん育成会も代々引き継がれ、子どもたちの育成のために一生懸命努力してきました。しかし、指導者の方

の中には、自分の子どもが卒業した後も長く続けてこられた方もいます。昨年勇退された山崎さんは、20年余り指導者として子どもたちの育成に尽力していただき、育成者としても感謝の念に堪えません。水泳スポーツ少年団はこれまで多くの表彰を受けています。平成2年には少年消防クラブとしても活動を始め、消防訓練や出初式などに参加し、その活動を通じて心身ともにたくましい子どもに育っています。

これまでも多くの指導者が水泳スポーツ少年団の育成に尽力していただいたことは、まさに地域活性化そのものではないでしょうか。このような事例は本市にいくつもあると思います。子ども育成ボランティアありがとう」と感謝します。

編集後記

「今年の桜は最高に綺麗だね。」という会話が、あちらこちらで聞かれました。当たり年というのがあるのなら、まさにその年にあたるのでしょうか。知覧平和公園の桜も見事な咲きっぷりでした。

復の処置を施した結果、最盛期に負けないくらいの見事な開花となりました。ご尽力頂いた担当の方々もほっとしたことでしょ。英霊への鎮魂をこめて植えられた桜が、来年も満開の花を咲かせることを願うばかりです。
(蔵元)

▼広報編集委員会

- 委員長 西 次雄
- 副委員長 吉永 賢三
- 委員 塗木 弘幸
- 松久保正毅
- 蔵元 慎一
- 内園知恵子



◎発行：鹿児島県南九州市議会
TEL 0996(03)410-1

◎編集：議会広報編集委員会
FAX 0996(03)46000

◎発行責任者：菊永 忠行
ホームページ <http://www.city.minamikyushu.lg.jp>